

野菜



シシトウ・甘長とうがらし栽培



野菜

山下 伸一

下島営農指導センター
080-1729-1630

露地栽培

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
シシトウ	△							
甘長とうがらし	△							

定植：△ 収穫：■

定植

1. 植穴は、苗鉢よりもやや大きめにし、50～70 cm間隔であけましょう。
2. 定植苗は、第一果房が開花する3～4日前の若苗を定植しましょう。
3. 定植時には、アブラムシ・スリップス対策としてスタークル粒剤を1株当たり1～2 g植穴処理しましょう。
4. 定植を行う際は、鉢土の上2 cm位が見える程度浅植えしましょう。
※植え付けが深いと白絹病や疫病の原因となります。
5. 定植後、初期生育促進の為に、株元に液肥灌水しましょう。
6. 定植後、直ちに支柱に誘引しましょう。

定植後の管理

1. 定植後7～10日頃までは、鉢土が乾燥しないように株元に灌水し、根の活着を促しましょう。
2. 活着後は、徐々に灌水量を減らし、根を深く張らせましょう。
3. 第一分枝以下の果実・脇芽は、早めに取り除きましょう。
4. 定植後20日前後までに、本支柱及びネット張り(2 m間隔)を行いましょう。

整枝・誘引

1. 整枝は、出来るだけ中心に光線が入るように摘芯しましょう。
2. ネット張りは、樹の生育に合わせて行いましょう。高くなった場合は、2段目を張りましょう。

施肥量

シシトウ	10a 当り/kg			甘長とうがらし	10a 当り/kg		
必要成分量	N	P	K	必要成分量	N	P	K
元肥	30	25	30	元肥	15	20	15
追肥	10	10	10	追肥	15	15	15
合計	40	35	40	合計	30	35	30

詳しいことは各地域の担当者、又は栽培講習会等でお聞き下さい。

果樹



2月の柑橘園管理



果樹

木蜜 栄次

上島営農指導センター
080-1759-0088

露地デコポンでは、収穫が終わりポリ個装をすすめている時期と思われます。水腐れ・ヤケ果の発生がみられておりますので、選別時に混入が無いよう注意しましょう。また、これから収穫する品種については、天候に注意し適期貯蔵病害対策を行ってください。

1. 樹勢回復対策

収穫が終了した品種では、チッ素主体の葉面散布を短期間で行い樹勢回復に努めましょう。

薬剤名	希釈倍数	備考
尿素 アミノジューシーN 14 神協スピリッツ	500 倍	収穫後3回程度集中散布を行いましょ

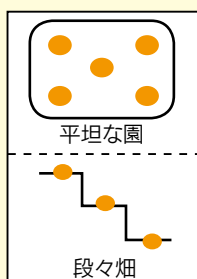
2. 土壌改良・施肥設計計画(土壌分析の実施)

良い作物作りはまず健全な土づくりから始まります。JAでは土壌分析を行い園地の状況に沿った施肥設計を行います。土壌分析を積極的に活用し、高品質果実生産を行いましょ。

○土壌分析時の土の取り方

平坦な園地では●で示した5か所から土を採ります。また、段々畑の場合は、各段の真ん中付近の土を採ります。その際表層から5 cm下の土を取り除き、その下の土を15 cm程度垂直にとります。その後陰干しを行い良く乾燥させます。(石などはこの時に除いて下さい)

乾燥が終わりましたら500 g以上土を



袋に入れ、JAにお持ち込み下さい。

※分析料として、1 サンプル当たり 3,000 円程度です。

○土づくり

10 a 当たりの目安量となりますので、表の基準を参考に投入してください。

また、ヤシガラ単体では水をはじき腐植が進みませんので、必ず土と混ぜて施用しましょう。

時期	資材名	10a 当たり	備考
2～3月 (収穫後)	堆肥	2,000kg	完熟物
	客土	4,000kg	3cm以内
	ヤシガラ	20 袋以上	2キュービック (120ℓ / 11kg)
	土の恵み	12 袋以上	堆肥・ヤシガラの代わり

○施肥

時期	資材名	対象品種	10 a 当たり	備考
2 月上旬	炭酸苦土石灰	全品種	10 袋	
	新有機中晩柑一発	河内晩柑・清見・甘夏・パルル柑・デコポン	10 袋	超省力化タイプ (年1回施肥) (11 月施肥をしている場合2袋減)

3. 剪定について

まず園地全体が密植の場合は、縮間伐から行いましょう。令和元年産の成りが多かった園では、着花量が減少し裏年となる傾向にあります。その場合、剪定時期を遅らせて間引き主体で軽めに行い、あとは着花を見て行うようにして下さい。成りが少なかった園では、着花量が多いと考えられるので、やや早めの剪定を行いましょう。

水稲



農作業メモ



水稲

吉田 義文
指導販売部
0969-22-1105

令和2年産早期水稲について

いよいよ令和2年産の早期水稲が始まります。異常気象を受けにくい稲を作るには、まず健康な稲を作ること、健康な稲を作るには適正な育苗管理と適正な水管理を行うこと、そして土作りです。

また、昔から「苗半作」と言われています。早期水稲の場合、気温が低い厳しい条件下での田植えですので、苗の良否が初期生育に大きく影響します。品質の良い米づくりのために、健苗の育成に努めましょう。

本田の準備については堆肥や土壌改良資材の投入と、作土を15cm以上確保するよう心掛けて下さい。

育苗施設の点検・準備

約1ヶ月間の育苗期間となります。春一番等、突風被害が毎年見受けられますのでハウス資材の点検と修繕は早いうちに行いましょう。

健苗の育成

種子は充実した、健全なものを使いましょう。そのためには必ず種子選(比重選)を行って下さい。(比重 水10リットルに塩2kg)

病害虫防除のために種子消毒(エコホープDJ200倍液に24時間浸漬)と育苗箱の洗浄を行いましょう。

早期水稲の育苗日数は25日程度ですので、田植え日から逆算して播種日を決定しましょう。2葉苗～2.5葉苗の場合の播種量は乾籾で150g(催芽籾では180g)が基準となります。

播種に最も適しているのは、ハト胸状態の時です。そのためには十分に浸種を行って下さい。

また、水の入替えと、1日1回は攪拌して水温が均一になるようにしましょう。

水田の準備(※元肥の施肥量の変更について)

近年、主食用米の購買者より他の産地と比較して全体的に痩せ米が多いとの指摘があります。その為、平成30年産より元肥の施肥量を50kgへ変更しています。穂肥は15kgへ削減していますので注文の際はご注意下さい。効果としては、初期育成の促進及び地力の向上を促しますので、実施の程宜しくお願い致します。

※令和1年産早期玄米共同計算結果

12月26日に米共同計算委員会が開催され、以下の表のとおり精算金が決定されましたので、報告致します。

(特裁コシヒカリ 円/60kg税込) (一般コシヒカリ 円/60kg税込)

	概算金	精算金	農家手取	概算金	精算金	農家手取
1等	13,640	709	14,349	13,340	233	13,573
2等	13,220	721	13,941	12,920	245	13,165
3等	12,200	752	12,952	11,900	276	12,176

(一般キヌヒカリ・その他 円/60kg税込)

	概算金	精算金	農家手取
1等	12,260	490	12,750
2等	11,840	502	12,342
3等	10,820	533	11,353



畜産



子牛の冬場の管理について



畜産

井上 正一
黒牛産肉検定センター
080-1729-1626

冬場は子牛のトラブルが発生しやすく、厳しい環境の中、へい死事故につながることもあります。ここからは子牛の冬場の管理について注意点を述べていきます。

分娩時

子牛の分娩直後、体表は羊水などに濡れた状態です。母牛が子牛を舐めることによって体温の放散が防がれますが、濡れたままでは子牛の体温が急激に低下します。母牛が舐めない場合には、タオルや新しいワラなどで子牛をマッサージして、体表の乾燥と活性を促す必要があります。出生子牛の低体温はその後の発育に大きく影響するため必ず防いでください。子牛は抵抗力のない状態で生まれてきますので、出生後はできるだけ早く、多くの初乳を与える事が重要です。

育成期

代用乳給与の基本は「定時、定量、定温」と言われています。子牛が代用乳を飲むときの温度は季節を問わず一定ですので、外気温の低い冬場は代用乳を溶かす温度に注意する必要があります。スターターや育成飼料を十分に採食させるためには飲水が大事ですので、凍結防止等で飲水量を落とさないように注

意しましょう。

また、濡れた敷料と乾燥した敷料では体熱の放散が格段に違うため、敷料をこまめにチェックして交換することも重要です。牛舎用のヒーターの設置・防寒ジャケットやネックウォーマーを使つての保温対策も有効です。日中の暖かい時間は換気して、呼吸器病の予防に努めましょう。

もうひとつ大事なことは栄養の充足です。寒い時期の子牛は被毛が立っていることがありますが、これは寒さによる熱の放散を防ぐものです。また真菌症の発生が多い場合も栄養不足が推測されます。

上記のことに注意し、適切な飼養管理で子牛の疾病・事故を防ぎましょう。

